

控理を為すは、然るに、所斤出入を、
其の自給料を、之免状の中、
船中、出張斤量、
輸出、所斤、
市も、
おま、
固、
の、

政、
長、
の、

明治七年四月廿七日
大藏省
大藏省
大藏省

114
A.3140
3

乙

平百二十七号

本國者民支那多他之不足持
 鴉片本國之輪漕之時不常
 積來之港內他之旋海船之積
 他日出帆之郵船之積也
 上陸之方法之積也
 國公使之積也
 若見之公使之積也

大正十一年四月

大正十一年四月

所得元為宋際者方見也早之令
 進者以遠之海承方以市之馬白
 勅考以市之季稱片之系方貿易
 定則第七則之獨載方之通輸入
 禁制二白依令密為著之書害之
 防之權宜之方法ヲ設テ一時之
 漕ヲ許スル雖モ之カ為テ遂ニ為
 高之基礎ヲ築キ意外之書害ヲ破

之令或モ能ク一ノ極ノ存トシ本
 嚴然定例之通ノ書更ニ防方之
 存心不待止事情之書更ニ防
 申之書更ニ防日之船之移
 書法之有物不保之書之屬一
 高之抵為不斯之書之通
 出之稅采借庫之款之書之
 之船便以之積送之書之

物不為之乎子之屬之先之客為
う防之方法ニモ亦年々与確依于
規則 系集ニ添見込申進也

明治三十二年之 中島稅稅控院

陸奥稅稅控院

阿片取扱規則

第一

外國へ輸送スル阿片ヲ積載セル
船舶着港スル時ハ船司又ハ引受
人等ヨリ稅關迄陸揚ノ願書ヲ
差出スヘシ

但此願書ハ其箱ノ記號番號
箇數斤量元價及ヒ仕入場仕

向ヶ場等ヲ詳細ニ記載スルヲ要ス

第二

船揚陸揚免状ヲ税關ヨリ受取直ニ為行ラ陸揚物ヲ陸揚シ直ニ日本政府ノ借庫ニ預ラシトテ願ヒ出可シ

第三

税關ニ於テハ既ニ取設ケアル借庫規

則ニ倣ヒ其品ヲ預リ請取證書ヲ渡スヘシ

第四

借庫ニ納メアル阿片ヲ外國ニ輸漕セシトスル時ハ常例ノ藏出願書ニ税關ヨリ渡シタル請取書ヲ添テ直ニ本船へ積込シテ願出ヘシ

第五

向ヶ場等ヲ詳細ニ記載スルヲ要ス

第二

石陸揚免状ヲ税關ヨリ受取直ニ為行ラ陸揚物ヲ陸揚シ直ニ日本政府ノ借庫ニ預ラシトテ願ヒ出可シ

第三

税關ニ於テハ既ニ取設ケアル借庫規

則ニ倣ヒ其品ヲ預リ請取證書ヲ渡スヘシ

第四

借庫ニ納メアル阿片ヲ外國ニ輸漕セントスル時ハ常例ノ藏出願書ニ税關ヨリ渡シタル請取書ヲ添テ直ニ本船へ積込シテ願出ヘシ

第五

向ヶ場等ヲ詳細ニ記載スルヲ要ス

第二

石陸揚免状ヲ税關ヨリ受取直ニ為行ヲ陸揚シ日本政府ノ借庫ニ物ヲ陸揚シ直ニ日本政府ノ借庫ニ預ラシムヲ願ヒ出可シ

第三

税關ニ於テハ既ニ取設ケアル借庫規

則ニ倣ヒ其品ヲ預リ請取證書ヲ渡スヘシ

第四

借庫ニ納メアル阿片ヲ外國ニ輸漕セントスル時ハ常例ノ藏出願書ニ税關ヨリ渡シタル請取書ヲ添テ直ニ本船へ積込シテ願出ヘシ

第五

直ニ為行ヲ陸揚シ日本政府

向ヶ場等ヲ詳細ニ記載スルヲ要ス

第二

石陸揚免状ヲ税關
物ヲ陸揚シ直ニ日本政府ノ借庫ニ
預ラシトテ願ヒ出可シ

第三

税關ニ於テハ既ニ取設ケアル借庫規

則ニ倣ヒ其品ヲ預リ請取證書ヲ
渡スヘシ

第四

借庫ニ納メアル阿片ヲ外國ニ輸漕
セントスル時ハ常例ノ藏出願書ニ税
關ヨリ渡シタル請取書ヲ添テ直ニ
本船へ積込シテ願出ヘシ

第五

庫租ハケ月一ラード立方ニ付壹分銀
四ケノ割合ヲ以テ納ムヘシ

但十五日以内ハ半ケ月十六日以外
ハケ月ノ算當ヲ以テ納ムヘシ

第六

阿片ヲ積載スル船舶入港シ直ニ倍
庫エ預ル一ヲ為サス其儘船中ニ
隠シ置置款又ハ他船へ竊ニ積移ス

一ヲ謀リ為ス時ハ稅關ニ於テ取押
ヘ速ニ没收ス可シ

第七

阿片ハ日本國エ輸入嚴禁ノ物品
ニ付若シ竊ニ陸揚セント謀リ或ハ
密賣等ノ企アルニ於テハ其品ヲ没
收セシ上一斤毎ニキシロ銀十五弗
ノ罰金ヲ取立可シ

横濱港

税

關

右ノ條々商議決定セリ依テ双
方委任ノ全權記名調印スルモ
也

セリ然
政府
右登

商議決定セリ依テ双
全權記名調印スルモ

セリ然レト虫進而改正又ハ増補ヲ要シ度其日本
政府ノ特權ヲ以更革スル故障勿ル可シ依テ
右簽トシテ茲ニ双方委任ノ云云